

# 薬害について学ぼう

柴田 健琉 <sup>\*1</sup>

令和 6 年 8 月 20 日

<sup>\*1</sup> 学籍番号：2024D14

## 0.1 薬害の原因

これまで様々な薬品で数多くの被害者を出した薬害が発生してきましたが、それら殆どの原因は人的ミス、既知の問題の報告・対策を怠ったり、遅れてしまうというものです。

- ・ クロロキンによる網膜症：薬品の危険性についての注意不足 [2]
- ・ キノホルム製剤によるスモン：感染症だと疑われ原因究明に遅れが生じた [1]
- ・ サリドマイドによる胎児の障害：西ドイツでの報告から 10 ヶ月遅れて対応が施された [1]
- ・ 血液製剤による HIV：企業が危険性を知りながらも対策を怠り、販売を続けてしまった [2]
- ・ MMR ワクチンによる無菌性髄膜炎：国の監督不足で企業が国から承認を受けていない製法で薬品を製造してしまった [2]

## 0.2 薬害の起こらない社会のためには

薬害を防ぐには、動物実験の実施や品質管理を徹底することの他に、企業、PMDA などの国の機関や医療機関、そして消費者との情報共有を積極的に行うことが大切です。企業と国の機関の情報共有は薬品の開発・製造に最も影響を与える重要なものです。国の機関は企業の行動の監視・指導、薬品の承認、など薬品の安全性に関わる役割があります。特に開発中の問題や消費者の被害情報は迅速に、そして透明性を持って情報を優先的に公開し、それらを元に国の機関、企業、医療機関や消費者が適切な行動を実行すれば薬害の防止や被害を最小限に収めることができるはずです。薬害の被害者に対しても、政府や医療機関等が適切な処置を施してくれる環境を整備し、被害者の援助を充実させることや障害の持つ人に対する正しい知識の理解も重要になってきます。

## 0.3 薬害の起こらない社会を構築するために我々ができること

薬害の防止には薬品に関する情報共有が重要ですが、そこで、我々消費者は何ができるか。それは副作用の報告です。薬品の未知の副作用が見られたら健康被害救済制度を使って PMDA などに報告することができます [2]。副作用の情報を共有することで薬害の早期収束に役立てることができます。

## 0.4 感想

過去の教訓があるおかげか、近年薬害のに関するニュースが少なくなっていますがそれでも薬害は起こってしまいます。薬害の原因の殆どは人的ミスなので完全になくすのは難しいですが、対応は過去のものほどより良くなっているのが見られます。そして今でも苦しんでいる薬害の被害者がいると考えると何かしらの支援をやりたいという気持ちが湧いてきます。

## 参考文献

- [1] 厚生労働省. 【中高生向け】全編・動画版『薬害を学ぼう』. 07/2024.
- [2] 厚生労働省. 薬害を学ぼう. Distributed at Ministry of Health, Labor, and Welfare website. 06/2024.